

【議会報告会】

○新型コロナウイルスワクチン接種のスピードが遅すぎる。もう少しアクセルを踏んで進めてほしい。

⇒議員 国からのワクチン供給量が7月になって減るなど、接種予約が取りづらい状況が続いている。市民の不安を取り除く体制がとれるように、市民からの意見を議会内で共有して行政側に意見しているが、思うように進んでいない。

⇒議員 現在、各議員や各会派からの意見を議会内で集約して、議会として一本化して議長から市長に要望を行っている。今後も行政側にしっかりと働きかけていく。

○妊産婦乳幼児保健指導事業について、母親と乳幼児へのケアは大事であるが、併せて乳幼児の兄弟が小学校低学年ぐらいまでの年齢であれば、学校の保健教諭やスクールカウンセラーなどがぜひその子へのケアもしてほしい。議員にもその点を心に留めていただきたい。

⇒議員 分科会審査の中では、乳幼児の兄弟へのケアの視点での議論はなかった。部局横断的に相談体制を整えて、母子はもちろん、その子の兄弟の不安を取り除いていくことは大切な視点であると再認識した。議会内で共有し、議論を促していきたい。

【シティ・ミーティング】

《テーマ：四日市市政全般について》

○コロナ対応として、二酸化炭素濃度測定器の設置を幼稚園や学校等で検討しているとのことだが、ぜひ避難所での活用を検討してほしい。

⇒議員 二酸化炭素濃度測定器を対象とした県や市の補助メニューはあったが、受付を終了したと認識している。今後、さらに必要ではないかと指摘する議員もいると考える。ご意見として承る。

○災害廃棄物処理ハンドブックが広報よっかいちと一緒に配布されたことに感激した。大量の災害廃棄物が出た場合に、なるべく初期段階から極力分別することが大事だが、被災されて職をなくした方が分別の作業員として雇用してもらうことも大事なポイントで

あり、そのような視点を計画の中に入れてほしい。

⇒議員 今定例月議会の一般質問で災害廃棄物に関する質問を行った議員もいる。今回、各家庭にハンドブックを配布したが、市民に読んでいただけるように啓発を行っていく必要がある。いただいたご意見を行政としても議会としても前向きに受け止めていきたい。

○平成 27 年に施行した市民協働促進条例の第 15 条には、市が市民活動に対する基金制度等を整備する規定がある。期待していたが、基金創設の動きが全然見えないので、議会内で検討していることがあれば教えてほしい。

⇒議員 議員政策研究会において、条例に定める市民協働促進のための基金制度について調査研究を行うための分科会を設置する予定である。議会内で議論を始めるものであり、直ちに基金ができる訳ではないことはご理解願いたい。検討にあたっては、ささえあいのまち創造基金との整理が必要と考える。

○今年 3 月に、伊坂ダムは市の管轄ではないという回答が市からあった。また、伊坂ダムでの国体開催についても、国や県が行っているのも市はとやかく言うことはできないとの返事があった。このことを議会としてどのように捉えているのかという気持ちがある。

⇒議員 伊坂ダムの管理について、一般質問で取り上げ、関心を持つ議員もいる。改めて現状をお聞きし、議会内で共有したい。

○本市で風致地区に指定されているのは四郷地区だけだが、指定区域内の土地は何もできない。所有者は高齢化して子どもの代は市外へ出て行ってしまふ。また、昭和49年の豪雨災害を受けて指定された経緯もあり、結論の出ない問題だが、風致地区について議会内で関心を持って研究してもらいたい。

⇒議員 ご意見として承る。議会内で共有し、課題として取り組みたい。

○近鉄四日市駅周辺等整備事業とバスタ事業の進捗状況を確認したい。

⇒議員 いくつかの国の予算が付き始めており、バスタプロジェクトも国の事業として認められ動き始めているが、まだ入り口段階である。2027年の東京・名古屋間のリニア開通に向けて整備を行うスケジュールである。

○バスタの整備基準を見ると、バリアフリーになっていなかったり、自転車レーンをつくっていないなど問題がある。海外に比べて日本は歩道整備も含めて遅れている。

⇒議員 従来は「歩道」という道の考え方であったが、今後の本市の中心市街地の整備に関しては「歩行空間」と位置付け、大きな公園の中を歩行できるような考え方で進めていくと担当部局から確認している。いただいたご意見の内容については議会内でも議論されており、しっかりと受け止めていきたい。

○自宅周辺には高齢者が多く、コロナワクチンの集団接種会場である四日市大学まで歩くことができない。定員10名程度のマイクロバスでピストン輸送できないか。

⇒議員 交通手段の確保については議会から要望を上げており、当初より近鉄四日市駅からループバスが出ている。公共交通では、近鉄富田駅からバスに乗っていく手段もある。ご理解願いたい。

○広報よっかいちで、四日市の財政状況は盤石であるとの掲載があったが、現在の本市の財政は、長年にわたって高齢者が積み上げてきたものである。今回のワクチン接種に関しても、高齢者を置き去りにしている。高齢者を大事にする原点をもう一度考えて、今後の市政に反映させてほしい。

⇒議員 ご意見として承る。議会内で共有したい。

○SDGsの取り組みが議会であまり取り上げられておらず、市の動きも目立っていない。議会からも後押ししてもらい、もう少しPRが必要だと思う。

⇒議員 SDGs全体を網羅することは難しいが、個別の項目ではさまざまな提案や疑問を一般質問の中で取り上げている議員もいる。現在の総合計画についても、SDGsに対応するような内容で構成しているので、市の考え方を確認いただきたい。持続可能な社会をつくる趣旨に反対する議員はいないので、議会全体で今後さらなる議論を行う必要性は感じている。

⇒議員 現在の総合計画の中ではSDGsを進めることが書かれているが、SDGsで掲げる17のゴールはそれぞれが連結しているにもかかわらず、行政は縦割りの組織であるため連携が苦手である。現在、部局間の連携体制を徐々に取り入れようとして

いるが、まだまだの部分があるので、議会としてもSDGsを盾にして部局を横断した行政の取り組みを促していきたい。また、市民の皆さんと一緒に進めていきたい。

○幼児教育に関する第二次適正化計画の議論が進められていると思うが、待機児童や認定こども園化の問題などもある中、議会の中でどのような議論が行われているのか市民には見えにくいので、教えてほしい。

⇒議員 教育民生常任委員会では、7月から8月の休会中に委員会を開催して、第二次適正化計画についてしっかりと議論を行っていく予定である。インターネット配信も行うのでご参考としていただきたい。

市全体として、公立と私立、保育園・幼稚園・認定こども園のバランスや、園児が減少する公立幼稚園をニーズに合ったように変えていくことなどを考えることで、待機児童の課題にも大きな影響があると考え。すべての子どもたちが取り残されず、教育・保育の機会がしっかりと保障されるよう、議会として議論を行い、行政に対しても意見を伝えたい。

⇒議員 第二次適正化計画を議論するにあたっては、子どもたちの環境をまず一番に考えて議論することが重要である。行政としては、子どもたちの集団が確保できる教育環境を整えるために第一次計画から適正化を進めてきているものであり、認定こども園化を進めることで、公立幼稚園がなくなることがクローズアップされるが、認定こども園として幼稚園児を受け入れる状況ができ、これまでになかった給食を幼稚園児も食べることができるなど、メリットもたくさんある。

⇒議員 第二次適正化計画は議会として大きな課題と捉えており、議会内で課題を共有する場を設けた。可能な限り情報発信や情報共有に努めていきたい。